



萩原 操

三重支部 副支部長

世界一の技術力を手助けしているのは、本当にすごいこと。そういう所にも競輪が関わっていることを若い選手たちにもっと教えてあげたい。

今回は三重支部の萩原操副支部長に、津市にある三重県工業研究所を訪問していただきました。主に中小企業を中心とした製造業の技術支援を行うこちらの施設を見学されての感想や、支部についてのお話などを伺いました。

競輪ってこんなことやつているんだ!!

浅井康太ら若い選手の相乗効果で三重県全体が盛り上がっています。僕らベテランもラインとしてしつかり力になりたい。

—施設を見学されてどんな感想を持たれましたか。

「恥ずかしい話ですけど、こんな身近にこういう研究所があるなんて初めて知ったので、施設の中や機械まで見せてもらえて勉強になりました。日本の中小企業さんの世界一の技術力を手助けしているというのは、本当にすごいことだし、そういう所に競輪の補助が出ていて、力になってるんだと思うと、競輪も捨てたもんじゃないな。若い選手たちにももっと教えてあげたいですね。自分たちはこんなふうな役に立っているんだという自覚が大事だと思うので。やっぱり競輪は世の中のためになっているという元で存在意義もあると思うし、選手だけでなく、お客さんはもちろんのこと、たくさんの人に知ってもらいたいですね」

— 昨年は浅井康太選手の大活躍もあ

りましたが、現在の三重支部の雰囲気などは？

「浅井も特別競輪2つ獲つて、三重では海田和裕以来のグランプリ出場だったんですけど、本人にとってもかなり自信になったと思うし、柴崎(俊光、淳)兄弟とかヤンググランプリに出た西村光太、坂口晃輔とか、若い良い選手がどんどん出てきたので、その相乗効果で中堅、ベテランもまた頑張れるというところで、いま三重県全体が盛り上がっているという感じですね。若い選手たちにしても、一人ではなくてやっぱりラインがあつてのことなので、僕らも「緒に走るときはラインとしてしつかり力になろうと。若い子らが頑張つて、おっさんもそれに乗って頑張るとい(笑)」

— これからの支部の目標や、若い選手たちに望むことはありますか。

「若い子たちに対しては、やっぱり一番初めに志した気持ちや忘れないうで、ひたむきに頑張つてほしいという思いは常にありますね。僕らくらい年齢を重ねると一日一日が勝負で、一年先のことなんて考えやれませぬよ。だけど若い子たちは長い目で二年、二年先を見て精進してゴッコッ頑張つてもらいたいなと思うんです。皆すぐに結果を求めますけど、そんな練習ないですから。僕自身もひとつのことが何年もやり続けてそれが実を結ぶことがあつたので、若い子たちにもそういう気持ちで一生懸命やつてほしいですね」

— 萩原選手自身の目標も聞かせてください。

「僕は昔から目標というのは全く立ててなかつたんですけど、ただ30歳、40歳といった区切りだけは大事にしています。今度は50歳という区切りがあるんで(現在48歳)、そこまでは今の位置でいられるように頑張りたいですね。その次のことは50歳になった時にまた考えようと思っています」

— 最後にファンの方々にメッセージをお願いします。

「いま競輪がこういう状態ですけど、僕らは本当に走ることしかできないんです。最後まで諦めない姿を見てほしいと思います。それだけです」